

政権交代をキャッチフレーズに行われた総選挙は、事前予想を遥かに上回る議席を得た民主党の圧勝であった。否、自民党の自滅と言っても良いのかも知れない。民主党のばら撒き政策が功を奏したという面もあるかもしれないが、それよりは自（・公）の与党が飽きられたことにあるのだろう。

愈々来る16日には、鳩山民主党政権が発足する。マイナー政党の社民や国民新党との連立政権である。

所見と要望を幾つか記したい。

#### ① 今暫くの猶予を与えるべし！

確かに、今までの自民党(公明党)長期政権下で、制度疲労を起こし、権力が腐敗した面も多々あろう。それらを一掃するという意味においては民主党(連立)政権の発足は意味がある。

二大政党制を目指しながらも、それが実現しなかった日本政治の為に、民主党が国政運営の勉強をし、力をつけることは必要なことであり、そういう意味においては、国民は少しは我慢しなければならないのかもしれない。

#### ② 第二自民党になるな！

民主党が、己の権力基盤を確固とする為に、自民党の権力の源泉であると思われていた部分を徹底的に破壊しつくすのであれば、それは第二の自民党の出現でしかない。謀才のある者が居れば間違いなく、自民党を如何にして弱体化させるか深謀遠慮を巡らすであろう。国民はしっかりそれを監視し、見極めねばならない。政治が権力闘争であるというのは否めない事実ではあっても、相手を完膚なきまでに叩きのめすことまでは許されては居ない。それは日本と日本人にとって不幸なことだ。

#### ③ 解党的出直しを！

さて、自民党よ、どうする。相も変らぬ内輪揉め、国民不在、深刻な反省もない。これでは、自民党の復調はおぼつかない。敗戦ショックから立ち直れずして、自滅への坂道を転がり始めたか？ 解党的出直し出来るか？ どん底から這い上がるだけの根性があるだろうか、見ものである。老害とも揶揄される旧体質のベテランが落選したこの機を活かさない限り明日の自民党は無い。

#### ④ 虎変せよ！

民主党のマニフェストや民社国の連立政権合意等を見て感ずるのは、これらを本当に現実の政策として実行しうるのかという疑問である。内政は未だ良い。外交安全保障分

野においては極めて疑問が多い。心ある国民は民主党にこの国を託すことに不安を感じている。識者や米国の要人が懸念を表明するのも当然であろう。

確かに外交安全保障分野で敢えて自公政権との違いを明確にしたいという思惑もあり、やや現実的では無い政策を訴えてきた。然し、政権をとった今となつては、民主党も現実主義者になるべきである。

「君子は豹変し、大人は虎変する(易経)」と言われるが、民主党は、堂々と虎変すべきである。社民党に譲歩すると現実路線を取れなくなる。参議院での過半数維持の為に、国家の大計を誤るべきではない。

#### ⑤ 小選挙区制は日本人の体質に合致していない！

前回の小泉郵政選挙、そして今回の民主の政権交代選挙、何れもがワンフレーズに踊らされ、極端から極端に結果がぶれた。大きく針が、右へ、そしてその次には左へと大きく振れるというのは尋常ではない。

国家運営の理念がなく、利を以って国民を誘い、その結果として、選挙の度に国民が右往左往するのは民主主義が成熟していない証左である。

そういう意味において、現行選挙制度は日本に向いているのか。確かに自社対立の五五年体制は望ましいものではない。その弊害が今日なのだから。五五年体制は、極端から極端に振れはしないが、政権交代可能な政党による政権交代が為されなかったのは問題だ。社会党凋落したのは故あることである。何れにしろ、政権交代が適時に行われ、政党が緊張感を持って活動し、国民が多様な選択肢を持つことが望ましい。そしてこの場合の二大政党というのは、国家運営の基軸において大差ないことが大前提である。

何れにしろ、今回の結果は民意であり、その結果が吉と出るか凶と出るか、予断は許さないが、何れであろうとも受け入れざるを得ない。それが民主主義の宿命なのだから。

(了)